沿海異聞

十三

805
17

百十三 第四棚

別14
8

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

東京府図書館
舊幕引繼書

沿海異聞巻八

一　南部大膳大夫より松前奉行江差出候書付

一　相州三浦郡野比村海岸江異国船の事

一　天文四年未歳異国船漂流聞書

一　寛政三亥年十二月八丈島江唐船漂着
　　地役人より申出候写

沿海異聞巻八

文化八未年七月廿一日

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

せしハ百日ふ漂ひ日本の地をはなれ海上三百
二十里余をへて琉球の知らぬ国に漂ひ又三百八十
里余をへて薩摩国鹿児島に漂着し上陸して
去る後に取りしき去十二月江戸に帰りつくを得たる
誠に万死を出て一生を得たりといふべし此の船中縄の
珠数を納め画工に命して是を志るし報恩謝徳の
志をのぶるものなり

願主

濱沖船
田村嘉吉

文化十年癸酉六月阿蘭陀船二艘入津書留

文化十年癸酉

此船かひたん
エヒトウニイアブラハムカワサア

風説書

一当年来朝之阿蘭陀船壱艘ハ当子六月咬𠺕吧表
一同出帆仕候処海上無別条今日当地着岸仕候古船壱艘
ニ而商船者御座候
一去ル亥年申上候エゲレス国と阿蘭陀国と戦争弥
相募り候処印度之ハ及争和仕候且又去ル午年より渡来
不仕候ニ付而者戦争弥敵船多防船之本国表与
出帆仕咬𠺕吧表与船数合申候商年迄も借入候船

ニ差出候矢柄船壱艘相借受差渡候而去ル亥年
阿蘭陀仕候而此ひいんし之者申付候而右者当年差
渡候尤右之洞役被成候右之者今般也子ラント洞役
ナカサ国ゟ罷出候右者ハホルテヘ在留候者当年来朝仕候
之者ニ通詞共ニ申諭ニ付当年者相勤候咬𠺕吧
仕出之船ニ乗組候者阿蘭陀国ニ而当国之船を相雇
候船ニ而御座候右ひいんとへエラレキドヨンヲ之差支候
在来役所ハ代りとして新ニひいんアントウニイアブラハム
カワサア義ニ当年付候而送連渡之新ニ申付候
此者相勤候得共被申付候右ハ
一右之通ニ御座候

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

一 去ル巳年播州白幸丸 咬𠺕吧出帆 船中南北
見当居候ニ付八月ハ風出ニ而北方エヘ大数船を出逢
ニ付右乗組之者共の内かひたん始何れも広東表エボレス
商館ニ見逢り同所ニ而咬𠺕吧表迄送り候旨紀人(?)
申候

一 去ル巳年咬𠺕吧より船帆仕候而船十月 五六ケ海上出帆
咬𠺕吧表出入の居候

一 此段右洋中 廣船之趣承り
右之者共趣承り候ニ而宿候
かひたん調役
右之ほとも申て御座候

右かひたん 申上候趣承り
新聞書
あらまし申上候 かひたん書出
通詞中より和解仕差上
巳六月八日
通詞目附
大小通詞

仕立弐番船荷

一 萌黄大緞子　三十八反
一 猩々緋　四十四反
一 黒同　十反
一 紫同　廿六反
一 花色同　九反
一 緋同　二反
一 黄同　四十反
一 緋同　七十六反

一 羅紗茶同　三反
一 黒花色大緞子　十八反
一 黄同　三十四反
一 花色同　三十六反
一 萌黄小緞子　二反
一 萌黄緞子替枝　七十二反
一 紫同　三十四反
一 花色同　三反

一 花色同　四十六反
一 黄魚子之　十六反
一 紫同　十二反
一 萌黄同　三十二反
一 花色同　七十反
一 花色同　七反
一 花色同　二十反
一 二番さし〻　四千百十四反
一 上さらさ　六十反
一 ふとんさらさ　二千六百十反

一 黒同　十七反
一 緋同　十反
一 花色同　十四反
一 濃花色　七十反
一 緋呉絽服連　十七反
一 黒同　十反
一 數　六百六十七本
一 本上さらさ　百六十六反
一 新渡さし〻　廿六反
一 さいき　二百十二反

一 山帰来 壱万五千斤
一 胡牛 壱万八千七百四十斤
一 象牙 千八百七十五斤
一 陽 八千百九十五斤
一 肉豆ク 六千斤
一 綸緞 三千七百
一 紗 外ニ脇商 三千七百五十斤
一 ミイラ 四十斤 壱番船分斗

一 白砂糖 百五万二千五斤
一 蘇木 拾万七千斤
一 丁子 壱万五千斤
一 糸 二千三百十五斤
一 紅胭 五千斤
一 肉豆ク 六千五百斤
一 水銀 二百五十斤

一 紅すゝ 三箱
一 生皮 三箱
一 アフム 壱箱
一 山猫 壱疋
一 白砂糖 紅毛二番船 五十六万七千三百六十斤
一 湯 八万七千五百斤
二番船分斗
一 セイニコウ 四箱
一 白ハ 壱箱

一 千箱 壱箱
一 糸 壱足
一 ヒイニコウ 二箱
一 蘇木 五万七千斤
一 ヒハ 二箱
一 五色ハ 壱箱

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

一 三番糸 九千四百八斤
一 莪朮 四千斤
四番錦尾
一 大腹皮 三百四十斤
一 甘こりふ 四百四十包
一 丸ザボン 四百五十
一 安息香 三百斤
一 アラキ 三瓶
一 縮緬もん [illegible] 七十七

一 丸ザボン 四百斤
一 檳榔子 三千八百斤
一 椰子油 七百四十斤
一 丸香 二千把
一 白檀 二千四百斤
一 キヤトミ糖口ふりふ 六十七

一 埴人 九八
一 番紙同 九包
一 同ふさめの 九六
一 同加子皿 三つ
一 同盤さら 三つ
一 同茶碗 九六
一 同金[illegible]瓶 二十
一 同綺きやさこ臺ろふ 百八十六
一 硝子ものもの 三つ

一 糖ロこう奴 千四百七
一 硝子いハり 四つ
一 同菓子入 九八
一 同小瓶 十包
一 同大ころふ 三十
一 同皿 三組
一 同板 三百四十組
一 キヤセこ同 二つ
一 同[illegible]小千島 十三揃

一金緞紗綾　百三十反
一テリヤアカ　八十斤
一ハルサヒコツゲイハ　四十斤
一鼈甲　四十四斤
一爪　二十斤
一鹿切　八斤
一ゑきりしや　四十七枚
一没石子　三百斤
一カナノヲル　三百斤
一サフラン　十四斤
一サアニム油　九十九瓶
一各種酒金鐏　硝子酒瓶　三封
一キヤマン之　三口
一菓子入　四口
一墨こつふ　三十之
一硝子角瓶　四口
一門堀蝸之　弐り
六書紙屋

一檳榔子　九千斤　一丸藤　三万六千三百斤
右七月十三日

癸酉七月晦於旅中写之

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

引入候積ニ御座候由ニ付、追て下鎖之節唯今ニ而不詮之者ニ付
中鎖ニ而取繕候得共、右之品々御伺向之上、此段御注進申上
候、此段御注進申上候、以上

寅 六月十日

松平肥後守内
本田清次

覚

一 手鎖 九人

一 刀 弐本

一 鉄炮 弐挺

一 短筒 弐挺

但袖筒様之物

一 大筒 弐挺

但短筒

一 鉄炮 船ニ積合候様子

以上

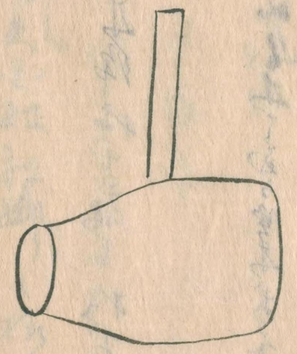
浦賀湊江松平肥後守殿ゟ仲合秋来候ニ付、一昨十五日夜
異国船壱艘相見候段船手之者ゟ申出候ニ付、早速手勢之人数
召連彼地江罷越候処、凡七八百石積之大船ニ而乗組八九人程
手組並之船相見候処、筒袖之服ニ而言語通し不申、不相分
相分り不申候、其外似候者、異国人ニ有之候哉、異人之様ニ相見へ
合図ニ而不相分候、相分り不申候、右船之場所不審之儀ニ付

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8

ガラス使用

イキリス人にても其外異人共を遠さけイキリス人にては
一 船中にて朝夕とも茶にて御座候得は唐かしの類を食し候由
茶にて飯の代りに上物類を食し候由
一 言語はおらんたにて申候得共コロニヤヲランダイキリス大日本江人ト申事
おらんた申候由
たしか通し候由
右のもの
大英氏名書付
一 イキリス共異船共漂流之節今日より一両艘船出候由
浦口番船共其外役人並兵士ニて今日より船中ニ一同湯を遣し
右船之向きおゝくの船しまを出し書塗り立船中を何分見事

此度江戸近辺ニ而損船等之儀ハ今日天文方并異人共越年對
いたし通詞番船しまの人向足拵を当まより平拵を当
下役人共得の衣食まて凡其儀に上様を料理は甚御座候
一 今日船中ニイキリス人代りして役人共船を出し候由番船ニ而有之
早々帆いたし其外之役人之船ニ御用物為取替も
食後保養船中ニ而仕儀ハ我を出し候由
一 此船ニ而陸ニ上り候ニ一同ニ御座候ニ上之上座ニしゆうを
御座読合上座ニ右大相し御手をいたし文より下座し
右之人家中をいたし見物仕候大て船中ニ挨書をも請取候由
右ニて御座候

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

右蘭字一紙ニ相認有之候付写差上申候以上

寅六月十八日　　松平[illegible]内
柴田郡蔵

口演

異国船当年参候ハヽ捨候船ニ而御座候而浦賀

表ニ而取計候ニ付押送り申来候得ハ[illegible]書掛

[illegible]浦賀表ニ差送り候様被申付候

書掛ヶ之儀[illegible]

右之書付[illegible]遣ス

異国船書掛之儀[illegible]

[illegible]

発端　　　　快速　　　　船名
The Brig Brothers
デ　　ブリグス　　ブロヲデルス

人名　　　及　　八人
Peter Gorman & 8 men
ペデル　ゴルトン　　　　メン

自従　　　地名
From Calcutta
フロム　　カルクツタ

港
Fields Bay
フエルド　ベイ

十日　　　六月　　　千八百廿八年
10th June 1828
テン　　ジユン

ブロデルスィ快船ベテルゴルドン 人名 外八人乗組
カルクツタ 地名 江戸ノ湊ト来ル 千八百拾八年
十七日 我朝寅年五月十四日ニ当ル
右ヽ書ヽ候ヽをまゆカルクツタと云は印度ニテベンガルニ有カリ
リツトと唱ふる都府なるよし
セオカラヒー小国カリクツタは大なる都府也 絶て異国
なり 家数大抵七千軒程ありて 彼紫ハ数多有てヽ海辺
よりは小邑にて 整列せる街衆肆居有り カルクーニ 吐綬鶏
ヽ此地と交て 皆く 蕃仕部ヽ港ヽ患 無せは 交易
望しるへし 或日 此地を開闢て 暦数九百七年となると

或云八百二十六年まて此地ヲ其後千百九十七年
彼ホ杜尾ヽ王てスエル王と称す スコチカて 人名ヽ都府を
領り此ハ顕 着なるにて称すホマラバル中にて
着き交易ヽ部邑ありてあるし 今此は諳厄利亜人
払郎察人和蘭人にて交易今ホある
右ヽ通カリクツーに今此諳厄利亜人ヽ今ホにて有之
此其彼地ヽ仕立して候ことなるべし
寅六月
高橋作左衛門
一 異国人差出候書面ヽ儀 文字漏近有之 和解仕
かね候 所 ニ候 追而 可申上候

一千八百十四
1814

日本文化十一年当ル

右ハ西洋紀元ハ大抵ニ廉中ニ於ケル年数ヲナス也

実　有ナリ

ホストンハ北亜墨利加新諳厄利亜国ノ府ニシテ北極
ニ出ルコト四十二度二十五分ニ在リ海ニ臨テ其中ニ大ナル港アリ廣
廣大無華ニシテ大家三千軒アリ産物ハ魚類鯨油材木鐵

等ニシテ他州ノ者ト交易致シ候此地我邦天正十二年諳厄利
亜ヨリ人ヲ移シ候居住シ 此地ヲ新諳厄利亜ト名ケ申候 衆ヲ集メ或ハ
追々ニ大ナル所ト成リ郭ヲ構ヘ安永年中迄治所イタシ居候
此処ハ英吉利本国ノ書中ニ記シタルハ此地ヲ近年ハ外ノ書ニ載セ居候
亦英吉利人共中ニ呼ビ書ニ新ニ記シ候旨補説ス 安永
四五年ヨリ諳厄利亜ノ役人共ニテ国ノ情ニ背キ人ヲ虐使シ
貢税ヲ聚斂シ候故ニ人々甚ダ恨ミ安永九年ニ至リテ引続
戦争ニ及ビ遂ニ諳厄利亜人共ヲ此諸州ヨリ追出シ 諳厄利亜
国ニテモ之ヲ離レ彼ノ自立致シ候 以上所業人ニ引ノ新諳厄 在所ニ居候
利亜ヨリ西南続キ東西フロリク国ニ至ル 大凡方三百余里 横ニ渉ル
十三ヶ国一致イタシ各自立イタシ候故ニ其総名ヲ合衆国十三ヶ国ト

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

新ニウエハムプシヽ、マサシコセツトハアイ、ロデヱイランド、コンコキチキコツト

新ヨルク、新ヱルセイ、ペンセルハニーンヽ、テラワル、マレイラント、

ヒルシニーシ、北カロリナ、南カロリナ、ミヨルヂヤ等ニ而、十三ケ国ニ相分ル　去天明六年

判行之小地図ニ認候

右御尋ニ付取調此段申上候

寅五月

高橋作左衛門

別紙

常陸国鹿島郡ゟ出帆

之宮村
新造船

船行
清右衛門船

別紙

大貫
吉六船

右船産物積候処当十九日江戸川入津仕候沖合ニ而異国船

一艘罷在候ニ付船中之者一同立帰り浦賀湊江入津之節

同所御番所江御届申上候処右船之儀被召捕方之儀ハ海上之儀ニ付

御伺申上候処右之通り之次第ニ付乍恐此段御届申上候

申上候以上

寅五月廿日

杉浦左之助

昨十九日九ツ時頃浦賀沖ニ而別紙之帆船弐艘見受候処異国帆船ニ付

通船之者共相尋候処全く異国船ニ候得者風順次第明日ニも

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8

ガラス使用

廉〻以御下ケ有之候ニ付右之趣諸事ハ不記其外申出候處
寄出ル事ハ仮成以兎角書ハ御届下ケ有之諸事差出し候
其記仕候様同中通事衆ゟ仕候書面ヲ以申上候

寅六月廿六日　　内藤平紀

諳厄利国　一名イギリス

船之名　ゲフルノトルス

船長六丈程　幅七丈四尺程　深壱丈程

船長　ヒーテルコルテル　二十九歳

按針役　セーエニクイニ　二十二歳

大工　シキルゼヲールト　三十三歳

水夫　シエメスメエニ　二十六歳

同　ヤニロベンソン　二十歳

同　シヤンウイハ　三十一歳

同　ラルフスシツト　三十歳

料理人　ヤーメスカラフノク　二十八歳

小使　ショルセカレニス　二十二歳

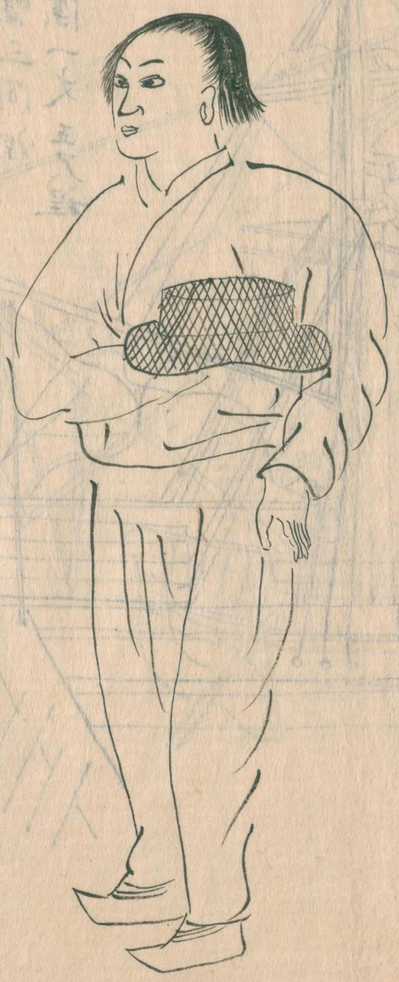
諳厄利亜ヨリ日本迄　凡壹万三千里

同所ヨリベンカラ迄　凡壱万里

ベンカラヨリ日本迄　四千里

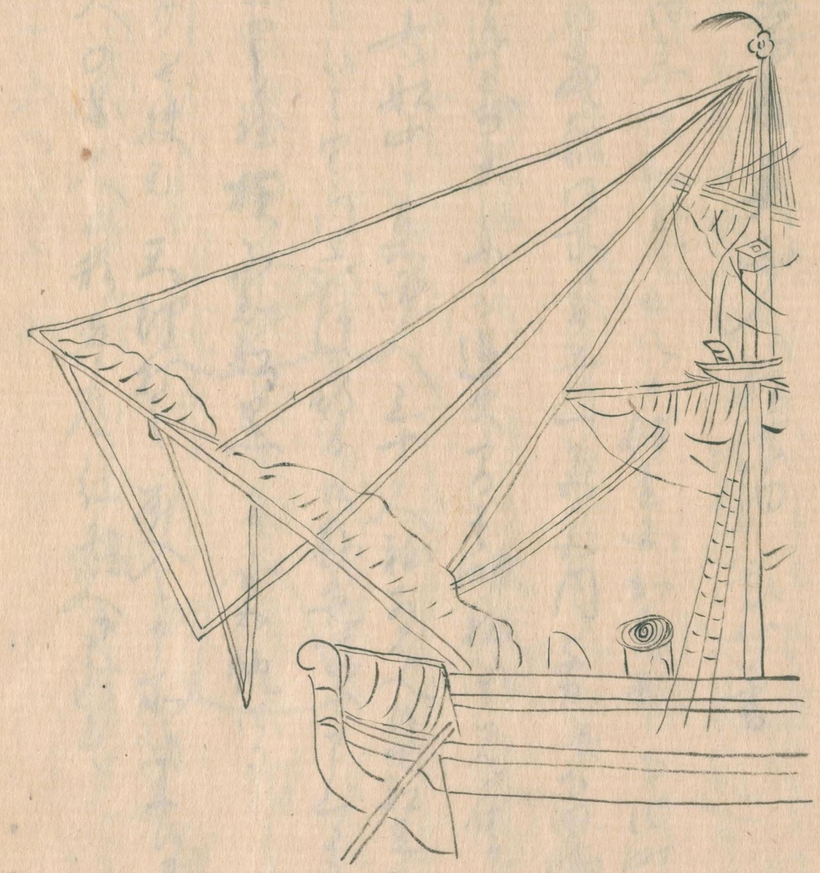
但日本里程ニ也

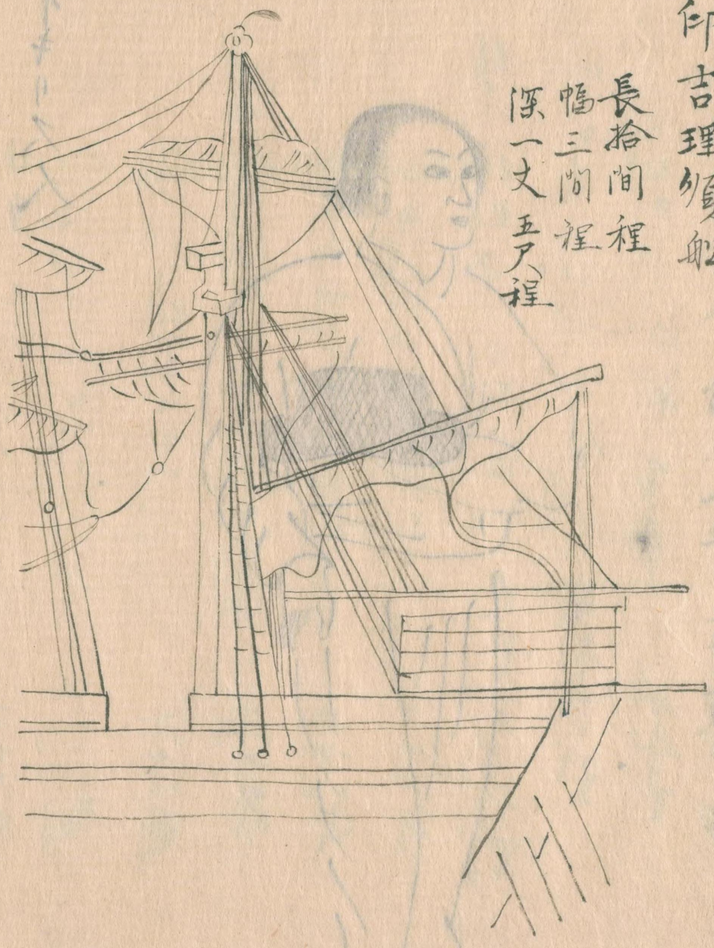
イキリス人



国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8

ガラス使用





仰吉理須舩

長拾間程
幅三間程
深一丈五尺程

国立国会図書館　　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

當夏異国人船漂流之覚書

一元文四年未ノ五月廿八日　伊豆国加茂郡下田町沖ニ
通り候異国船四艘　是ハ一里半余与力兵下田御番所役人
名主年寄共出舟ニ而追欠ケ申所右船ニ而及候得共兼修共
如右古船中ニ異国人三十人程相見へ候由　船足早く追付
かたく候由申候　同六月朔日勢州之方江まいり候船も
相見へ申候　横ハ異国船見へ候　帆ハ

一房州長狭郡天津村ニ　同月十八日未ノ異国人
八人之唐人の形平者紅毛人ニ似出て

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

房州府文村市右衛門と申もの門前ニ有之 古平二郎船ニ有
之異文字之もの様ニ一通り取調候処 陸奥守殿ゟ御勘定
奉行中江差出候処右之趣ニ一通り相分申候

未七月十六日

松平陸奥守殿御勘定奉行 神尾若狭守ゟ御届之文
化年未七月九日 東郡六郎御代官所 房州天津村
浦方府文村市右衛門船ニ異国人漂着候処 取調之上 同年
同月晦日 松平陸奥守殿ゟ 牡鹿郡 谷川浜百姓
支配 平之丁 世界ヲ渡り 参り候 異人合計 御勘定所ニ
入御届置候

一 人のかふり物

頭ニ七人のかふり物

一 房州長狭郡天津村之内府文村市右衛門と申もの異国人
漂着ニ付取調候処右之者共書面ニ差出候中ニ以右衛門
写ニ有之文字も相見へ申候

一 松平陸奥守殿ゟ御届 奥州牡鹿郡谷川浜百姓与惣
次平之丁ニ異国人壱人漂着候ニ付右之者共書面之
文字

進

上

具呈戊壹番南京船主　馬設元
信謙吉　為報明事切有
貴國商船一艘于上年三月廿四日天色梳船被風漂至
用索捧救至四月初旨進船山口內船上共十三人當經地方官報明上憲設館
安置于六月十九日起程二十日護送難商進寧波奉　憲奉請命財東信公與乃
照前年之例厥將此差當即設館安頓加意款待今奉
旨護送十三人回寄是以勉力差辦前來于上年十二月初七日在寧波開駕出口
王上福庇至本年正月初十日平安收港故將護送如來情由理合報明伏乞
當年老爹轉啟
王上俯鑒下情恩施格外則政等与財東信公與均感永戴矣

戊之番南京船主　馬設元
信謙吉　具

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

計開　護送難商帰國奉
皇賞難商傳兵衛名下　元宝銀十両
又舵水手人十三人名下各三両　元宝銀三十六両
又黄緞袋十三個　各賜佩帯
又咨文一角

計開　帯回銀貨什物
一官給船價　元緞銀六十両　計一封
一論帯二千八百九十二斤　毎斤價三分五厘　代銀一百一両二銭二分
一鼻塩魚二千八百斤　毎斤價一分四厘　代銀三十九両二銭
以上二宗共銀一百四十両四銭二分
一烟葉二百七十五包　銭七折計九十八千二百九十四文
一鉄梳二門
一布帆二十幅
一小布帆二幅
一縄索二条

宝暦四年正月　日
具呈成一番南京船主　馬政元　印
信謙吉　印

咨文畧之
文昏百画　伝兵衛殿搭トアリ　ノ中ニアリ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

具呈公局午九番船主程赤城未二番船主宋敬亭未五番船主
徐調元等為祈轉啟事切来販
貴國之阿蘭人向在西洋買賣收買燕窩一宗往各國消售
唐山亦常来販 赤甘深恙其情倘嗣後阿蘭人如有此貨
採辦前来或過包頭不敷之際赤等公局應收六分之内
無論多少准令配給但需預給貨樣子別上中下三等
講價為此伏乞
列老爹轉啓
王上所稟情節俯令准行感不淺矣
天明七年十月

日午九番舩主程赤城

未二番舩主宋敬亭
仝五番舩主徐調元

天明七年十月

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

上

具呈末五番船主徐調元為祈轉啓事切本船總管余三光
向喚京屋遊女初風右館伏侍今循例給送白糖五百觔為
此伏乞
當年老爹轉啓
王上恩准即于小伏粮内秤交會館收去發賣該價銀照例
給付該遊女收用為感

天明七年十一月　日　末五番船主徐調元

計開
一白糖　五百觔
以上送京屋遊女初風

十一月分臨時錢單
一在館唐船五艘每艘支錢三十千文
共計錢一百五十千文以上祈即給進館内應用為感

正月分臨時錢單
一在館唐船六艘每艘臨時錢三十千文共計錢一佰八十千文
以上祈即給進館内応用為感

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

具呈在留午五番船主吳鳳詔為祈轉啟事切此番王局各船壹銀缺額約有三萬餘兩倘若今冬幫之船劃補缺船又致缺額諒無盈滿之期是以特設補壹之法詳開於左為此仗乞列老爺轉啓

壬上恩准所求感不淺矣

一在明春幫或夏幫在於額外另發大船二艘不做生理裝來之貨留存會所校補各船缺額

一此船又在額內在舘駁計之船收管至於上番使道夫費等項該船結算

一此船不帶丞頭止裝粗雜糖貨藥材前來

一此船在河下一百日為期抵裝存積四紛回唐但無有押載之貨難於駕駛救將道辦唐銀四銅過裝以壓載

一此船恩准雜費壹四千兩給賜加五加其回貨配分之法開列於後

計開

一四千兩加五加二千兩共六千兩　給配包頭

一千五百兩　錢米

一三千兩　六二折海帶

一千五百兩

在留午五番船主吳鳳詔

天明七年十月

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

具呈錢局在館各番船主馮声遠等為祈轉啓報
明事切王局財東自卯年接辦范天錫銅務至去年
已歷五載茲因連年来販生理多有虧折以至諸務制
肘是于去年夏間欽差盤查恐将来又蹈范氏之轍
業将財東王恩綸改逹現在奉
旨着令新財東錢恩榮接辦是于聲等俱吏屬錢局財東
高駁今接到財東来信理應會同報明即是現在為始
凡有王恩綸名目一概統祈改正錢恩榮所有一切事宜悉
照旧規遵守辦理為此伏乞

當年老爹轉啓

當年
各位年行公鑒精報明

王上 恩准施行則感矣之

天明八年 正月

錢局 午十三番船主馮声遠
未壹番船主陳閏川
未八番船主樊升吉
在留 午五番船主吳鳳記
午拾番船主周士禄

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

本船帯来十景茶杯今點数缺少七十巻只或起貨時遺失
在船或混在別伏賣内候後査明帰数祈稟准為感

未九番船具

右船持渡候十錦茶碗今日改候處七十三不足仕候
右之品改之處右船ニ而積残リ又ハ売用ニ而相渡候儀
無之哉ニ後日尋可申候 右商売ニ相成申間敷候

具呈銭局各番船主陳闓川等為此番未拾一番船進港只帯進
貨小照不帯信牌前来即蒙
査問俱已領悉此係新財東銭恩榮辦事不熟據云将此小照作為
憑據誤船主只聽財東之言不曾詳細酌量甚屬不合惶恐之
至茲再求懇寔為冒藝唐突但冒渉遠洋来販若不
准令生理甚覚掣肘為是仰懇格外
垂慈准将未六番船帯来之魏元盛牌照一張抵作未拾壹番船
牌照
即令生理其照原係冬帮未六番船帯来求准換給宋敬亭名下魏
元盛之照已屬閑照若将此照挪抵未拾壹番船本照給借繳銷
即在此番寄信回唐知會財東准于今夏来船唐山另帯牌照一

張前來繳上不悞倘夏問不帶牌照聽憑不給未十一番船誅
給回貿閩等不敢一言妄求此等情由寔係進退維谷不揣冒
瀆伏乞
當年
各位 老爹轉啓
王上 恩准所求俾得上番生理不特閩等感恩以及財東均
感鴻德于無涯矣
天明八年 三月
陳閩川 獎升吉 程榮春
彭儀來 周士祿 張兩濬

蒙
閩未拾壹番船不帶信牌前來有無別故倘在唐山閘掉之際財東
曾有交付或在中途遺失或在漂到地方失落海中捏造虛情報
說並無收遇等語務須據寔稟覆等因俱已領悉原無財東
交付寔有失落海中倘有日後在
日本 無論他地流落等事閩等聽憑重處甘愿受罰無詞
為此公同具結上
覆
天明八年 三月
錢号未壹番船主陳閩川 獎升吉 程榮春

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

具呈錢局各番船主馮声遠等為祈轉啟事切前王氏財東名下攢
之午六番船不料這次大難非独貨物及大船之損失其最苦者是失去
銅仔一件本局係奉
旨官高給帑辦銅非与公局可比今午六番船銅仔有失寔難報銷
朝廷旦去年秋帮回棹之後船俱已先回報明該船裝貨明旦回閩棹情形等春
勢必催激銅秸声等皆係財東之商駁理应預為財東等劃日夜思維計
無所出寔是萬不得已仰懇
王上格外垂慈姑念錢氏財東新接辦銅措手不及祈將午年份使辦唐銀銅
頭借拾萬觔在今春帮带裝回庶得財東不致悞公可以久遠接濟生理其所借

在留午十一番船主周壬祿
難高午六番船主 張雨滄

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

銅額即將錢号名下之未入番船正額銅觔拾萬抵留俟今年夏帮頭船
辦帶唐銀午年份壹萬五千兩前来繳銷倘若今夏不及辦帶唐銀前来情
厚
後藤公大人轉啓

王上　恩准預借則不特声等感激即在唐貿東寔叨　恩德不淺矣

計開

一預借午年份辦帶唐銀銅拾萬觔

天明八年　正月　馮声遠　陳閬川　樊升吉　吳鳳詔
周士祿　張雨滄

長崎譯司為遵奉
鎮臺憲命給發憑文事照得據尔等呈懇每年西
号各艘備帶唐山金銀前来采收回貨抵換
日本文金在館使用訖足赤金元絲銀兩宗內帶
来進港之日報明即在會館兌明寄在會館
在留之間所需各商人雜貨及女身價等應
訴現笑之數即報街房將單轉交各商人收領
報出會館限于五日之內交等給付等情業經
允准在案必須嗣後按年辦来毋得違悞須至
憑者

計開

一元絲銀壹萬兩
作足赤金陸佰二十兩
詼價日本文金貳仟捌佰玖拾叁兩
日本銀壹萬柒仟叁佰五十捌兩
每文金壹兩作足赤金貳錢壹份伍厘
作元絲銀叁兩肆錢伍份陸厘

天明伍年二月

譯司

石栗給付　程養拙
程赤城　枚執

元絲銀壹萬兩作足赤金陸佰二十五兩王公兩局按手倫辨
前來在館使用等情今已允准在案嗣後詼一應事件及
詼項帶來之際封固上面應用後開之印令激印版字
樣為此具單

王局　恒久
安樂
長春

公局　恒久
天長

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

蒙

問前年所給抵換文金之照定係錢張等因均已領悉查得

已年稟給金銀抵換文金憑照兩局各給壹張并銅印壹

方理合據實稟

憲

文政紀元戊寅七月十八日

申三番船主　程赤城

今六番船主　馮声遠

寶暦三酉年十二月八丈沖ニ廻船
漂着ニ付地役人ゟ申出書面写

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

伊沢氏書

一 去酉十一月十日之朝六ツ時之内大船壱艘申之方ニ相見
漂船之様ニ相見へ候ニ付早速役人共差遣シ候処異国之大
船ニ而八丈嶋より小嶋大島渡海致候処難船ニ付見当
此節其国ニ而私之船ニ相見へ候ニ付同所之異国船ニ候ハハ御浦船
寄セ置候処其内蒸気船ニ而御役船漕寄候得とも

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

一　酒　二桶

一　大根菜　二百斤

一　魚　五十斤

寛暦三年十二月　　日　廣南船主

高山輝　朱印

程劍南　仝

右書付南船ゟ指越候ニ付返書

日本伊豆国之内八丈嶋孤嶋而萬品不足之地米穀殊乏也併價之際限有之者尤搜求嶋

中民家可送也

一　當嶋與伊豆国離於陸地二百餘里也本船自

是長崎可有開船哉宜可有裁断也

寶暦三年酉十二月　　八丈嶋　役人

此方ゟ南船ゟ差送り申候紙面ニ書付ゟ以右唐人ゟ来り

人三人も南船ゟ参り候得共様仕形無之差送り候而已送り可申哉

則返南船ゟ乗り候而ハ難仕形候也其外急飛脚以御注進申上候

明和七寅年漂流

一 船主口和ゟ唐人從ら揚り書付指出し写

南京難商程剣南高山輝為泣訴苦衷哀懇救事切山等
係唐山南京人氏壬申十一月在合發本船賷帯余
徳輝名信牌一張往廣南置買沈香藥材白糖
等貨装載満船廣癸酉年七月初八日由廣南
開船前往長崎貿易因洋中風汛不順七月二十
八日無奈轉回唐山暫泊普陀守風直至十一月十普
陀開棹復往長崎不料運命多蹇十八日洋中
狂風大颶打断正舵拆去大桅巨浪沖天船將沉没
命在須臾危撿異常驚傷極矣無奈捨貨物八百
餘包庶得船輕浪浮隨風漂流痛哭之聲晝夜
不歇狼狽苦情筆難盡述今幸于十二月初十日漂
至貴地荷蒙嶋長仁慈垂憐救護通船人衆得

頼全命今實再生之日永感不朽矣

寶暦三年十月　日南京難商　高山輝
　　　　　　　　　　　　　程劍南

右之書付并長崎入津之信牌壹張致所持候処
往年長崎往来　御免之私共ニ而御座候処信牌之写し
別紙ニ相添右信牌之無海上漂流之様子御尋ニ付如此御座候
之通書付指出申候

一本國南京乍浦港於壬申十二月二十一日開船十二
月二十七日到廣南

一廣南自癸酉七月初八日開船因洋中風信不順
七月二十八日轉回普陀因船發漏收入乍浦

一桅縄在普陀傷損斬去弐十餘丈

一十二月初七日在乍浦開船

一同月十八日在洋中遇颶風吹断正舵

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

一同月十八日至十九日拾去貨物八百餘包
一同月二十三日亦遇大暴風狂狼大斬去大桅
一十二月初九日洋中見山初十日　隨風飄至山邊
蒙貴地小船引路方能収進
高山輝
程劍南
右漂流之様子書付指出ニ付和解候處前書之通

二三町程沖ニ而繋留ニ付和船揖橋寄候処
小船ヲ以乗移り度旨申ニ付先一通り書付様子相尋候処
通船失去舵桅雖然可爲開船手否
如右相認差出申候
本船人等在洋不幸遇難飄到貴地蒙貴長
無憐救護今日之時實再生之日但船上失去桅舵
離日本長崎水洋迷遠懇求貴長哀憐異

國之人大開仁慈商議一法山等通船七十一人
得到長崎感激恩德不識答

一 山等大人懇祈借鋪屋一間留住在上以使與貴長
朝暮相商言談至懇至禱

高山輝
程劍南 全拜

右之通認差出候ニ付船主其外人数之内
人ニ而百姓共ニ御上陸ニ付番屋ニ而も御座候様仕形
付候得共見得不申候尤書付様ニ而

本船在外恐有風浪祈發小船牽到近處船上
有木㨂二隻要左右抛開

如右書付差出候段仕形ニ而様子ハ船永く繋留申度旨
承候得共船主要用之人ヽ陸へ差上候儀ハ無之旨ニ而船往
来ニて仕不申候得者左之通書付を以申出候

此地異于他港及于大風而海岸波甚急也自往昔

到于今日本之漂泊船大桅以数隻雖繫船遂
不得全也此地今時西風甚烈若今日今值有大風
者恐不能保兄等船者　明察焉
如斯之趣為申中ゆへ無之書付之趣ニ
弟家住唐山南京身往　日本長崎貿易迄今十
年矣不幸命運多蹇今于洋中失舵去桅随風飄
到貴地荷蒙貴長引船入津今日得有身命皆

叨貴長救全之恩乃再生之日船上尚有六十餘人併
糖藥等貨若有西風狂烈仰祈仁人救護弟當餽
酬大恩不浅也

高山輝
程劍南　拝

右之趣ニ而和解之趣ハ水主六拾四人并積荷物
陸揚仕度之旨致仕形之趣ニ付遠方ニ而者大ニ差支候
仕形ニ而ハ不宜御座候得ハ奉存候

通船七十二人并一船貨物洋中被難漂泊貴
地實再生之日若海岸波急難於枷椇伏乞貴長
仁人用心相商裁奪人貨物両全則通船人衆
感激不淺

右之通和解指出候ニ付返答候

此地西風烈則不能下小船今已風波静貨不起
上恐難保由是明日貨物揚于陸地可使人警
護也

右和解ニ而申出候ニ付彼合点致し書付候

洋中過風捨去貨物八百餘包今船上有所貨
物約一千　包兼蒙明日將貨物起上岸
未積於鋪屋内伏乞貴長明日發小船則感
不淺

亦右之通和解ニ而申出候ニ付小角對談仕候内嘗済候

一人參　三十斤

一玉帶　一副

一法藍蓋碗　二百五十副

一書　二十一箱

一廣圓（即龍眼肉）　八箱

一荔枝　二箱

高山輝　印
程劍南　全

加用
一伽楠　弐連

江戸唐

右之書付差出候　御荷物出迹より海中夜半中ニ付
並揚急キ浜ニ而致ス處船之者共ニ而船ニ漕寄リ其夕呉相
相凡ニ而夜中浦之内江着岸船之者ハ大概者先ニ而船ニ而船戦被
成リ相候浦入荷物之無之も其儘浜船積おろし遅れ候ニ付
御用之荷物おゐ候趣ニ付御用籠あ浜荷度候
荷物浜船ニ而揚申候所大船より荷物多様ニ船ヲ
浦へ戻り荷物之上ニ而残り候へ共十二月十五日

荷揚ニ取掛リ揚仕舞申候ニ付又大風雨ニ而荷揚
リ候而右船も破損仕候得共津呂之内岸ニ押
付申候而大船之内ニ而有之候被船ハ仕舞痛ミ
不申候人足揚おゐ候破損無之ニ而飛船ニ而来申候此書
荷物之写

一　船中發漏有水恐糖貨于濕欲懇貴長今日即

一　着人起上為感

十四日西北風にて千石船壱艘入津致し候処[illegible]
右之内荷物の内薬種人足揚させ申候十四日
之内出越り　捨荷物之儀者船中にて船頭へ相渡
[illegible]揚仕候由

唐船捨荷物之覚

一　人参　八箱　但百斤入

一　天蚕絲　六箱　内[illegible]
一　竜眼肉　弐箱
一　珠錠　四箱　内[illegible]　但[illegible]　合[illegible]斤
一　桃香　三包　但三包合三百斤
一　辰砂　弐桶　但弐桶合四百斤
一　紅　千百斤　内[illegible]
一　[illegible]　門　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8

ガラス使用

一 氷砂糖　百八拾包　内四包濡痛

一 白砂糖　六百八拾四包　内六拾五包濡痛包補是申出

一 茶種　弐百五拾包

此訳

一 茴香　八拾包

一 益智　三拾五包

一 烏薬　七包

一 甘草　四拾六包

一 大黄　廿拾四包

一 山査　八拾四包

一 白朮　百四拾四包

一 木香　八拾六包　内五拾五包 七拾三

一 黄芩　拾七包

一 桂枝皮　四拾五包

一 沈香　卅拾七包

一 骨砕補　三包

一 淫羊藿　三包

一 藁本　弐拾六包

一 馬銭　拾三包

一 白芷　拾八包

一 穿山竜　三包

惣荷

御用御荷物数大小三拾七

船中手捻荷物大小千四百拾八

粒子百四拾枚

船道具之覚

一 布帆 三拾八端 内 拾八端ハ 八尋宛 / 拾四端ハ 拾四尋宛

一 苧綱切 弐筋 但 拾弐尋

一 渋ゝ綱切 三筋

一 帆柱 三本 内 壱本ハ 拾尋余 / 壱本ハ 八尋余 / 壱本ハ 四尋余

一 艀艜 壱艘

一 生麻 弐百拾把

一 筵 壱把

一 弥帆柱 壱本 但 九尋

右之通唐人之合候場所ニ而大荒ニ逢ひ候内楫損し候ニ付
楫も痛多く只今之儀ニ而者破損ニ相成可申哉 痛有之候ニ付
此度船乗之儀ニ而此船不用之由ニ而被申候 乍然揚候処も
大勢之儀一所ニ引揚候儀難相成候ニ付 先ツ相改ニ上之様
無之中ニ而御座候ニ付御取計之事 船之儀ハ差戻し候而唐人共六人之

如之品物當蘆之節方々差出無之ニ付相願船小田ニ唯今
茶浦上通殿一往ヶ様之亦可然哉否書付可差出候
蒙起貨之注　船上人在岸居住至明年春閏日期長
久恐我工社水手人等下愚粗魯之人閑居無事往
山上海邊散走為此祈貴長借大舖屋一所逼船
人一併同居以使嚴之拘管此禱
如右役々共之者為致ニ付茶評議之通茶浦々小田屋之

支度為仕候趣承知書付写し
一　船上貨物極蒙貴長労心今也起上感激慈恩
銘刻肺腑但本船
天后聖母意欲請上海雲山長楽寺内供奉未識可否
一　數日起貨有労各位村長當何以酬労幸祈示下聊
表寸心
一　員役幾人每人應送白糖何斤數

一小船幾艘每船應送白糖何斤數

一每日雇用起貨人數只該白糖若干幸祈照人數

一前日大風之時有傷辰者一人有傷手者一人下水

勇力帶繩者兩人乞查其名亦欲送糖酬謝

一在外看守貨物幾人每人應送白糖何斤救

一走差役徒幾人每人應送白糖何斤數

一長樂寺宗福寺每寺欲送白糖何斤數以助香燭

之敬

一今居甚三郎舖屋應送白糖何斤數

以上應何分送酬另乞祈莫長主裁是禱

高山輝
程劍南拜

布書有指明另述者

天后聖母欲請土長樂乞無可任其意矣

一 村長員役書記走差役小船暨貨物看人大風之時
擢衆者四人爲謝貨物起上之労欲送白糖數斤
其意志雖不堪甚感聊不及謝
一 旅館甚三郎是亦不及謝
一 宗福寺長樂寺每寺爲佛香燭之敬欲送白糖
是莫奈何言也唯宜任料簡焉
たゝ舘主徳積等ハ役を得候様記置候ニ而も可然由

船魂之儀ハ郷邑長楽寺佛前ニ而焼却
一 去ル十五日夜ニ至り唐船漂着場所ニ而建候柱壱本相残り候を取上
為致ニ付掃除捨置ケ所陸地へ上ケ置候様申付候
一 本船積荷物之儀漁船ヲ以積廻し候積出ニ付御役所御用ニ
用意ニ付右之寄附ニ而宗福寺両寺へ寄附致候
両寺之内ニ而米穀以上右之節十五日十六日両日施餓鬼
施行大切ニ法要申候

一 唐人搦方小島村之人足ニおゐて荒磯浦ニ大サ廿尋八方

横六尋之船造り候様之船を唐人立置荒磯浦小島ニ而も

為居候処長崎奉行揃之船ニ而者致候ニ付両船とも

之内中国船江者乗十六人一船ニ乗りて数名ニ而為縄

船之番人九郎兵衛七兵衛等申ニ利之り船を取圍切り合

唐人ニ而船を主ニ乗替り荒磯浦小島ハ捕取れ大小島之内唐人

七人之首を住切候者中の野原ニ食事一斷ニ而捕押し候

菜汁ニ相添之人数ニ而捕取り中の其文船ニ得させ之在候

取之新ニ扱所ニ而

一 本船之儀共之其の出帆の様ニ候ニ付當押し而船を取りて

然所ニ扱方當番をし役人共ニ出帆之船を乗渡し候ハゝ

本船停泊西岸縄索俱断両傍損砕中間積水

恐沈在即欲懇貴長委員者今折開未識貴長

意如何乞示知禱

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

答

本船将來欲難繫停意解於船而可矣

程劍南 答

懇求析開

右之通解船江戸表より申上候ニ付 高山輝 商量 程劍南

ミ人來夏迄在留ニ而候ゆへ申出

請求析解然與高山輝兄並船上衆人商議而以

一冊印之明日可告

答

敝夥計高山輝并船上衆人已經商議乞求析解

再造冊送呈

右之趣連名を以書付差出す

南京難商 高山輝 程劍南 為仰祈拯船事 切因本船發漏

不能久泊已經沈溺若不拆開執必被浪波衝散
恐板木無存矣爲此伏乞嶋長委員行拆解或修
葺或改小船或塡崎嶇道路以方公用幸祈識
鍳則感不淺矣

寶暦三年十二月

日南京難商　高山輝　印
　　　　　　程劍南　仝

右之書付指出申候船解之儀ハ[illegible]
[illegible]船之[illegible]解之儀[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

一　唐船[illegible]

[illegible]

[illegible]

本船漂收貴嶋以来各村長並嶋民人等辛勤勞慰之
至今將破糖三十二包聊爲謝勞之意懇員長配分

贈送為感

高山輝

程劍南　今具

右之通書并扇面ニ認[illegible]大坂ニ遣ス

[illegible]

[illegible]小役人ニ而[illegible]

一 唐人[illegible]七拾七人

一 日本人[illegible]

小船ニ而唐人百姓[illegible]大坂[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]唐人[illegible]

[illegible]

[illegible]唐人[illegible]

[illegible]

給り候様被成候様相給延シ上ニ而勤之候ニ村役ニ為致
申し遣候

一 唐人共へ乗候之書付唐紙并大根大豆饂飩小麦之類等
為御見せ候八郎兵衛え申付候、大根并
當所ニ而入用之品ニ付候之趣、被下候様ニ付候、但
其之品被遣申候、尤右之通り村々ニ而割合被遣申候

一 長崎奉行所其外浦賀ニ而御目見之節割札并唐人共へ
ニ而中御座候唐人共へ一切申合候而者不相成候
様ニ申付候

一 唐船漂着之節ニ而先例を以て唐人共ハ出島ニ而相渡
船より先格之通り荷物等取計候様及御沙汰候所、一ト通り
相成候而、是迄之通り及ニ而御答候
当所ニ而迄之上ニ而被遣候ニ付唐人共候并荷物等之
候ニ而見分之上、新規之段ニ而者之段ニ而多人数ニ付御取計候

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8　ガラス使用

唐船并安南国船漂着之事 唐船破船異国ニ揚り来ル事

別紙帳面相添差上候由承り以上

宝暦四年戌閏二月

寛政四年ノ比ノ説言

朝鮮国兵乱之事書上写

此度莫斯哥未亜(ムスコヒヤ)大王 朝鮮国を退治有之

聞候通りハ 朝鮮之国王通路之儀ハ海中ニ而ムスコビイヤか

大軍を起し大将ハ元達副将ハ歓喜軒と申者ニ而

四五万騎之軍勢を引率し朝鮮江乱入候得ハ朝鮮国ニ

大軍中々難防ハ大唐ニ加勢を相頼申候得共咸鏡

江原之両道を責取王を氷責ニ致し候由道八方へ

要害を築キ忽ニ大川をせき入申候由未タ日本へ加勢之事

申来り候様子も無之候得共 朝鮮王ハ日本江(以下不詳)してまいる

後ニ是ハ誤ニ而も有之由

拙句二章寄呈南畝老先生西政

今手江皐又幾年先生音問竟茫然于今謂古難
諧俗從此風流似謫仙坐享煙霞真要福偶逢萍
水亦前緣欲知別後相思處旅舘凄清暮雨天

其二

落花如夢雨如絲悵觸愁懷又此時幾度回循成
浪跡一春難遣是相思祇緣海國風塵隔謾評天
涯尺素遲吟筆少陵知徒在郵筒莫惜寄新詩

平湖張秋琴拜稿

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

和清人張敬修秋琴見寄韻　南畝

一筵萍水亦何年邂逅相逢忽黯然田氏疾為霞
外癇張公市隔霧中仙促裝難續殘生夢把筆猶
餘未了緣千里遥投青玉案瓊山縹緲海雲天

其二

六十餘生鬢作絲壯心何減往年時中秋雨後同
聯句各地風光異所思伏櫪酣歌敲玉磬知音零
落鼓琴遲披絨忽憶東裘褐未和河梁送別詩

和清人張敬修秋琴見懷之作　南畝

海舶年年崎水濱乾中文采有誰倫人間世路風波險
病裏衾裯節候新聯句猶思萍寄會對花偏惜杏園
春布帆無恙還鄉否天外神交入夢頻

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

別14
8

和清人江芸閣見寄韵

瓊山芸閣酒将酣彩筆堪揮韵可探縱是各天無識面
十年清興夢中諳

南畝

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8